

1. 議事日程（第8日目）

日程第 1 一般質問

1. 宮下 昌子君

- (1) 収賄事件における職員の倫理に関する調査について
- (2) 新市長のお考えをお伺いします
- (3) 樋島クラゲ加工場撤去について
- (4) スパ・タラソについて

2. 北垣 潮君

- (1) 上天草市の教科書を取り扱う書店について
- (2) 各団体への補助金について
- (3) 天草水害後に建てられた市営住宅について
- (4) 森国久氏の功績について

---

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（18名）

議長 田中 勝毅

1 番 何川 誠	2 番 嶋元 秀司	3 番 切通 英博
4 番 塩田 真一	5 番 何川 雅彦	6 番 宮下 昌子
7 番 西本 輝幸	8 番 高橋 健	9 番 小西 涼司
10 番 北垣 潮	11 番 島田 光久	12 番 新宅 靖司
13 番 田中 万里	14 番 園田 一博	15 番 桑原 千知
16 番 渡辺 勝也	17 番 津留 和子	

---

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（0名）

なし

---

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市 長	堀江 隆臣	教 育 長	藤本 敏明
総務企画部長	静谷 正幸	市民生活部長	緒方 雅文

建設部長	澤村 弘史	経済振興部長	川端 義孝
教育部長	舛本 伸弘	健康福祉部長	野崎 秀満
上天草総合病院事務部長	松本 精史	市長公室長兼総務課長	村川 和敬
財政課長	坂田 結二	水道局長	藤島 幸治
会計管理者	木本 昌亮		

---

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長	山下 正	局長補佐	原田 和久
参事	塚本 洋子		

---

開議 午前10時00分

○議長（田中 勝毅君） おはようございます。

出席議員が定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

報道機関から写真撮影の申し出がありましたので、これを許可します。

本日の議事日程はお手元に配付してあるとおりでございます。

---

日程第1 一般質問

○議長（田中 勝毅君） それでは、日程第1、一般質問を行います。

通告がっておりますので、順次発言を許します。

6番、宮下昌子君。

○6番（宮下 昌子君） おはようございます。6番、日本共産党、宮下昌子です。それでは、早速質問に入りたいと思います。

まず、収賄事件における職員の倫理に関する調査についてと通告しておりました。

昨年は上天草市民にとって行政や職員、そして私ども市議会への信頼もなくしてしまうような不名誉な事件が続き、大変な1年であったと思います。

また、前市長の突然の辞任により、短縮議会となつてしまい、12月議会では事件についての究明もできませんでした。その収賄事件ですが、先月16日には、元副市長の事件も執行猶予がつきましたが、懲役2年という重い判決が言い渡されました。しかし、判決があつたからといって、事件が完全に解決したとは思えません。まだ市民の中にはもやもやした気持ちがくすぶっています。そのうちの一つが昨年7月に発表された調査報告書です。実は、その判決の前の1月26日に開かれた初公判には、私も傍聴に行ってきました。そこで、相手方の浜田氏ははっきりと、職員に2,000円から3,000円位の中元、歳暮を贈っていた。市長にも贈った。市長は後援会だ

ったかもしれない。ほかの業者も同じようなことがあったと答えられたのです。私はやっぱりそうだったんじゃないかと思いました。そういうことがあったので、2月の補足調査ということになったのかと思いますが、通告しています調査報告書について質問する前に、まず、26日に発表された件について質問いたします。

私は、今回質問するに当たり、アンケートの詳細について知りたいと。このアンケートの詳細というのは、昨年6月17、18日に行われた最初の職員への調査です。その詳細を知りたいと文書開示請求をしていましたので、2月24日火曜日に総務課に伺い資料をとりに行きました。そして、質問の通告期限が次の25日でしたので、そのことについて通告したわけですが、そのアンケート調査結果の発表がその次の日でした。昨年11月18日から25日に、全職員に調査をされた分と2月に補足調査をされたということで発表になっています。

発表の中身としては、皆さんもう既に御存じのことだと思います。きのうの質問の中でも出ておりましたが、私はこの11月の調査のことは知りませんでした。尾上元副市長の逮捕が11月10日でしたので、多分、それを受けて調査されたのかなとは思いましたが、なぜ調査されたのか。そして、その結果をすぐに発表せず、なぜ今のタイミングだったのかを、まずお聞きしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） 11月18日から25日にかけて、今、議員のお話にありましたように、元副市長の逮捕の口頭弁論の中で、お歳暮、お中元があったということがわかりましたので、その部分について事実を確認する必要があるということで調査をいたしました。

これを発表しなかった理由といたしましては、別に何ら、ありません。ただ、どこかで発表する段階が出てくるかと。公判自体の最終弁論が確定した時点では出す部分があったかと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 意図的なものはなかったと今、答弁されたんですが、今、こういう事件が起きているさなかで、そして、その前に調査発表もされておりました。そういう中でしたので、11月に調査されたのであれば、その結果はすぐに議会へ。議員の皆さんもコンプライアンス調査特別委員会なんか開いているわけですから。そして、市民に公にするべきだったと思いますが、その点については。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） 御指摘のとおり、すぐにすべきだったと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） では、市長にお尋ねします。

市長は昨年12月14日が投票日でしたので、15日に就任されたと思いますけれども、この調査のことについては知っておられたのか。また、いつ知られたのかお聞きしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） おはようございます。

11月の調査について報告を受けたのは、昨年12月15日の市長就任後から年末にかけての間だったかと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 市長はその調査結果を受けられてどう感じられましたか。そしてまた、先ほども、すぐに議会や市民に報告すべきだったのではないかと申しましたが、そのことについてはどうお考えになりましたか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 11月の報告については、その段階ではどういった方からそういうお歳暮、お中元の受け取りがあったかというところまでは正直言いますとわかっておりませんでした。

とにかく年末はばたばたしておりましたので、いずれ補足的な調査は必要だろうということは、たしか申し上げたと記憶しております。とにかく、明けてすぐ定例記者会見もありますし、議会も控えているということで、その間にはもう少し補足した調査は必要だろうということを、たしか申し上げたと記憶しております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。

11月に調査をされた時点では、どこからというのはなかったということですが、2月の補足調査ではどこからもらったと――。じゃあ、11月にどんな調査をされたのか。これは全職員対象でした。それと2月の補足調査はどんなものだったのか教えてください。私がいただいた資料には、誰からというのは伏せてあり、何をというところは書いてあります。それをちょっとお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 贈答品を過去に受け取ったことがある、一緒に食事をしたことがある、そういった調査結果は出てたと思うんですよ。ただ、どなたとどうしたということまでは、わかってなかったと思うんですよね。だから、それを補足する必要があるだろうということを申し上げたと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。

ということで、11月には詳しくはしてなかったもので、2月に誰からということと内容を調査されたということで、その結果を26日に市長が発表されているわけなんですけれども、本来ならば、やはり詳しくわからないから、例えば2月4日に補足調査をされていますが、11月にした段階で、多分、どこからというのはわからなくてもそういうのを受け取ったということはわかっていたわけですから、本来ならば調査されたことに関しては、私たちに報告していただければよかったのではないかなと思います。

では、7月の報告書についてお伺いします。

7月の報告書では、その報告をされたときにも大分出てきたんですけれども、職員の中に業者から便宜を受けている者は存在しなかったという報告をされました。この6月17、18日のときは元建設部長の事件だったんですけど、このときの関係職員、吉田組だと思いますが、その29人に聞き取り調査をされた結果、便宜を受けている者は存在しなかったと報告されたのですけれども、本当にいなかったんでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） 御質問の件につきましては、元建設部長の第1回公判のとき、吉田組が受注した市の発注工事にかかわりのある職員29名に対して聞き取りを行っています。その中で、利害関係者からのせんべつと金銭及び飲食の接待を受けているか、受けていた者がいなかったか、その辺の調査をしました結果、市の調査ではそういう事実はなかったとお答えをしているかと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 金銭の受け取りや飲食の接待、せんべつということですけども、それとお中元、お歳暮についても調べておられるでしょう。それもなかったということですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） お中元、お歳暮についても、一応、一緒に調べております。私たちはその答弁の中で、金銭と飲食の接待とかとお伺いしていましたので、その部分については、市の調査では事実はなかったと。ただ、一部の職員だったかと思えますけど、お歳暮をもらっていたということがありました。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） つまり、お中元、お歳暮はあったということですよ。あったけれども、このときは便宜を受けている者はいなかったと報告されたのはなぜでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） せんべつと金銭、飲食に対して接待を受けている者はいなかったと報告させていただいております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） じゃあ、調べたときにお中元、お歳暮は実際にあったけれども、報告の中にはお中元、お歳暮をもらったということは入ってないということですかね、実際にはあったけれども。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） 一人だけおりましたけど、その分については言ってません。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） じゃあ、便宜を図るということはどういう意味だと思われませんか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○**総務企画部長（静谷 正幸君）** 便宜、金銭及び飲食の接待を受けた人たちということで、調査をさせていただいております。ですから、その部分については29名の職員に対して調査をいたしましたけど、実際、飲食、金銭の受理とかはなかったと報告を受けております。

○**議長（田中 勝毅君）** 宮下君。

○**6番（宮下 昌子君）** しつこいようですけれども、報告書には「元職員は上天草市職員の中に業者から便宜を受けている者が存在するという話を聞いていたことから」と書いてあります。だから、便宜を受けているという言葉が出てきているんだと思います。ということは、便宜を受けている者がいるかどうかということを私は調査しなくちゃいけないと思うんですね。

それで、便宜という言葉なんですけど、便宜を図る、便宜を受けている人がいるということなんですけども、部長はその便宜を、飲食の接待、またせんべつ、そういう金銭の受け取りとされているようですが、その中にお中元、お歳暮は入らないんですか。

○**議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

○**総務企画部長（静谷 正幸君）** お中元、お歳暮の部分については、私たちが調査したところの接待を受けたということには入れていなかったということでもあります。

○**議長（田中 勝毅君）** 宮下君。

○**6番（宮下 昌子君）** 便宜を図るとするのは、利益になるようなことや特別な計らいをするということです。で、お中元、お歳暮をやったり、もらったりするのも便宜を図るといって、便宜を受けているということには私はなと思うんですけど、そう思われなかったわけですね。

○**議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

○**総務企画部長（静谷 正幸君）** お中元、お歳暮というと、一つは慣習、社会通念上のお中元、お歳暮の部分もあるかと思います。実際、その分について、後で返還したのか、またそのまま受領したのか、その辺のところも考慮しながら2月にもう一回調査を行っております。

○**議長（田中 勝毅君）** 宮下君。

○**6番（宮下 昌子君）** 私だけじゃなくてこれは一般市民の方もそうですけれども、この報告をされたときに、やはり皆さんが、お中元、お歳暮をもらっている人はいなかったのか、いたんじゃないか、何でそういうのが報告書の中に入っていないのかというのがあって、まだこの事件に関しての市の対応に、まだもやもやしたものを感じておられるんだと思うんですね。やはりそのときに、そういう人はいなかったという報告ではなくて、お中元、お歳暮に関しては一人いたと報告すべきだったんじゃないかと思います。

○**議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

○**総務企画部長（静谷 正幸君）** 私たちがそこに回答させていただいたのは、先ほども申しましたように、せんべつとか金銭とか飲食の接待を受けた者がいたか、いなかったかということについて報告をさせていただいております。

○**議長（田中 勝毅君）** 宮下君。

○**6番（宮下 昌子君）** 行き違っていますけれども、だから、そういう報告をされたんですけ

れども、その中になぜ、お中元、お歳暮をもらってたという事実が入らなかったのかを言っているわけですよ。それも含めて報告をすべきだったんじゃないでしょうかと言っているんです。この報告の中にはそれを入れてないでしょう。なぜそれを入れられなかったのか。それも入れて報告すべきだったんじゃないかと。つまり、この報告は、私は嘘だったと思ったわけですよ。どう思われますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） お歳暮、お中元の部分で1件の受理をそこに入れなかったということではありますが、私たちは金銭とか飲食接待を受けていたか、受けていないかということでの冒頭陳述だったとっておりますので、それに対して受けていないという報告がありましたので、それで入れておりません。

○6番（宮下 昌子君） だから、それを入れるべきではなかったのかということ言ってるんですよ。それはわかります。だけど、私はこの報告が嘘だったのではないかと思うわけです。便宜をという言葉があるじゃないですか。便宜を図るといのは実際に金銭を受け取った、飲食の接待をただけではないでしょう。だから、そのこともきちっと入れて報告をすべきではなかったかということ言ってるんですよ。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） その点でありましたら、申しわけございませんでした。入れるべきだったと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 最初からそう言っただけであればいいんですけど、やはり事実が判明したんですね。この報告の後、みんな曖昧にずっともやもや思ってた、ああ、やっぱりそうだったんだと。はっきり、こういうことがありましたと、きちっと議会や市民の皆さんに報告をして、謝るべきところは謝らなくちゃいけないですよ。こういうことをするから、やっぱり何か隠しているんだとか、いろいろそういうことを言われるんじゃないかなと私は思います。

この報告をしなかったということですけども、ここだけの報告でいいというのは、総務課内といえますか、皆さんで話し合っただけで決められたんですよ。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） 一応、私たちが調査した中での決定ということで、そこに記載しております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） こういうことは、市長がこの間発表された、私ももらった資料の中にもありました。退職された方もいらっしゃいますので、これは在職している方だけの人数だと思えますが、かなりあったということですので、やはりその辺のことはきちっと市民の皆さんには謝罪すべきではないかなと思います。

市長は、所信表明で市政への信頼を回復するというのを第一に挙げておられます。先ほど

から何度も言いましたが、市民の信頼回復をするためには、まず何ごとも隠さず市民の前に公表して、そして謝るべきところは率直に謝ることが第一ではないかと思えます。きのうの質問の中でもいろいろ出ておりましたが、これまでの職員の人事異動の件、ちょっと皆さんがいろいろ不審に思うような人事の仕方とか、採用問題もありました。市民の皆さんの不信感を買うようなやり方を今までできておられますけれども、そういうことがなかなか市政の信頼を回復することまで至らないのではないかと思えます。

市長は信頼回復をするということを挙げられましたけれども、市民の皆さんに、まず私は隠さず市民に公表するという、謝るべきところは率直に謝るということをすべきだと思うんですけど、市長はいかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 全くもってそのとおりだと思います。

きのうも申し上げたんですが、とにかく再発防止に向けては職員一丸となってやる意気込みで、とにかく強い気持ちでおります。包み隠さず、とにかくアンケート結果についても公表できるように指示もしておりますし、早くその辺は御理解をいただいて、建設的な行政の業務に早く移行できるように、やはり信頼回復には、とにかく最大限に努めていきたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） いつでしたか、市民オンブズマンが情報公開ランキングというのを発表しておりましたけれども、上天草市は前年度の15位から31位に大きく後退していました。情報公開は、私たち議会も含めて、やはり市民の皆さんにもっとオープンに知らせるべきではないかと思っております。

裁判の傍聴に行ったときに裁判官とお中元、お歳暮についてのやりとりがありました。で、渡したと。はっきりした言葉は覚えていませんが、公務員のほうからこういうことをしてはいけないというのはなかったのかと言われたら、いや、やったけれども返した人もいたと言われました。裁判官が、上天草市というところはそういうところなんですかということをお聞きしました。そして、そういうところじゃないでしょうかみたいなことを答えられました。だから私は、本当にショックでした。やはりそういうことがずっと続いてきていたから、こういう事件が発生したんですよ。

だから、今後は、市長もそう答えておられますので、まずは市民の皆さんにオープンに何でもお知らせしていただくということをお願いしたいと思います。

それでは、次に移ります。

新市長にお考えをお伺いしますということで出しておりました。施政方針が示されるのかなと思っておりましたが、今回は骨格予算ということで、6月議会で示されるということですので、施政方針ということでは聞けません。それで、市長が選挙のときに公約をいろいろされておりますので、その中で私が昨年1年間の質問で、市民の皆さんの要望ということで取り上げておりますことについて若干触れたいと思えます。ただ、図書館建設と子ども医療費については、きのうも



出ておりました。図書館建設については見直すということになりました。私も市長のそのお考えに賛成です。私も、お金が潤沢にあるときならともかく、今はそういう新しい箱物を建設するときではないと思います。

ただ、きのうも出ておりましたけども、大矢野の森記念図書館については、やはり耐震の問題、利便性の問題から、私は早急に移転を考えるべきだと思います。まだ、どうするかは決めていないということでしたけれども、市民の皆さんが本当に利用しづらいところにありますので、これは急がなければいけないと思います。

合併当初は、大矢野庁舎の駐車場の隅のほうに倉庫みたいなのがありますよね。あそことかも考えているみたいなことを、川端前市長は言うておられました、最初はですね。そういうところとか、廃校になった上北小学校もあります。そういう学校の施設を使うとか、上北小学校も中心街からちょっと入ったところにありますけれども、今の図書館よりは便利じゃないかなと思います。基金がありますので、基金を使えば改修して、移転できると思うんですけども、そのことについてはいかがでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 森記念図書館の利便性が悪いという御意見はいただいておりますので、とにかく既存施設を利用したり、ほかの施設と複合的にどうにかできないか検討していきたいと思っております。ただ、既存施設とおっしゃっても、現時点ではなかなか具体案が出てきません。中北小学校についてもまだまだ学校が存在しますし、上北小学校については、現時点では行政の倉庫として利用されてるみたいで、基金も3億円程度だったと思うんですけども、ああいう建物を本格的に改造すると3億円じゃ全然足りませんので、やっぱり予算の枠内ということになれば、また限定されていきます。そこら辺も鑑みて結論を出していきたいと思っておりますので、いましばらくお時間をいただければと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 大矢野の皆さんにとっては早く解決してほしい問題の一つではないかと思っております。図書館建設については、検討委員会も設置されていろいろされたんですけど、私はこれは建設ありきの議論だったのではないかなと思います。

図書館の入れ物というよりも、まずは上天草市にとって何が大事かということ、中身の充実なんですね。きのう、市長も言うておられましたけども、蔵書数、本の数もよそと比べますとかなり低いですし利用者も少ないです。だけど、現実に図書館では、それぞれ囑託ではありますけれども資格を持っておられる司書さんが一生懸命頑張っておられて、どうしたら利用者がふえるか、いろんなイベントをしたり、また図書館だよりの発行やお話会とかをされておられます。多分、前市長の図書館の構想というのは、佐賀県の武雄市のようなイメージだったと思うんですけども、本来はその地域の実状に合った住民が利用しやすい図書館にするべきだと思います。これからいろいろ検討していくとおっしゃいましたが、図書館協議会もありますので、現場の司書さんを含めていろいろな意見を出してもらえればいいと思います。

私の意見を少し述べさせていただきますと、まずは蔵書数をふやすということではないかと思  
います。専門書なんかも必要だと思います。それと、開館時間を延長し、働いている人たちも行  
けるように開館時間の問題もあるかなと思います。

それと、上天草市は、後で交通弱者という話もしますけれども、高齢化とともに交通弱者と言  
われる方たちもふえています。図書館に行くことができない人のためにこちらから足を運ぶこと  
です。今、移動図書館がありますけれども、現在は1台で各4町を月1回、回っておられます。  
この移動図書館の回数をふやして、もっと隅々まで図書館として地域の皆さんが利用できるよ  
うにしていくのも一つの方法ではないかなと思います。

それともう一つは、非正規で雇用されている司書さんですけれども、1年、1年更新なので、  
なかなか長期的なスケジュールを組めないとか、そういうのもあるそうです。1年ごとの更新な  
ので、はらはらしながら仕事をするのではなくて、長期的な計画など立てられるように、もっと  
司書さんたちが頑張れるような図書館づくりをしていただければと思います。

私個人の意見を述べましたけれども、ここは司書さんや図書館協議会の方たちとよく話し合っ  
ていただければと思います。市長、よろしくお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 貴重な御意見として承りたいと思います。利用率を上げなければなら  
ないという気持ちはあります。そうですね、例えば、開館時間は確かに問題があるかなとは正  
直思っておりました。

蔵書数は、単純にふやすだけではなくて、例えば取り組み。要は、イベントとして今月のおす  
めとか、今月の新刊はこんなのですよとか、そういうPRをする。そういった形でわかりやす  
く市民に通知するとか、やり方はいろいろあるかと思うんですよ。そこら辺はソフト的な事業と  
して検討していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 広報なんかでも、図書館だよりということでもいろいろしてあります。  
ぜひとも、よりよい、利用しやすく、利用者がふえるような図書館計画を立てていただきたい  
と思います。

次に、子ども医療費の無料化についてですが、これもきのう出てきました。一応、前市長は中  
学校3年生までは考えるような発言だったので私も期待しておりましたが、きのうの答弁で財政  
的に大変厳しいということで、小学校6年生までということになりました。私は、一定の評価は  
したいと思います。小学校3年生から小学校6年生まで伸びたわけですから、財政の厳しい中で  
していただきますので、一定の評価をしたいと思います。

ただ、本当に厳しいとも言われました。だけれども、現在、県内の自治体の実施状況としては、  
45市町村ある中で上天草市はおくれているほうなんですよね。高校3年生までしているところ  
が1市2町1村、中学3年生までは6市26町あります。どこの自治体でも財政状況は一緒だど  
思うんですけれども、どこに力を入れるかということかなとも思います。ぜひ今後、財政シミュ

レーションとも照らし合わせながら、拡大の可能性については研究していきたいと述べられておりますので、ぜひ少子化対策の一つとしてお願いしたいと思います。

ひとり親家庭もやはりふえていますし、子ども医療費無料化の拡大というのは、子どもの病気の重症化を防ぐという効果もありますので、ぜひここはお金のやりくりですから、不要不急のものを改めて、ぜひ早い時期にさらなる拡充をしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 私も去年までは議会の人間でしたので、議事録を読み返したんですけども、はっきり中学校3年生まで導入するという発言は、実はされていないんですね。ただ、報道があって、そう思われても仕方がないのかなとは思っております。ただ、現実を鑑みて、小学校6年生という決断をしたところでございまして、そこは何とか御理解をいただけないかなと思います。

県内の自治体を見ても、確かに宮下議員がおっしゃったように、ほかに先行している自治体が多いのも事実です。ただ、ほかの自治体でも完全無料化ではなくて、例えば中学生には一部負担を求めたりとか、窓口無料ではなくて償還制度を導入したりとか、それぞれ特徴がございます。ですから、上天草市としては完全窓口無料化を小学校6年生までというはっきりとしたスタンスを出しておりますし、きのうも申し上げましたように、とにかく県内では一番低い水準の保育料の負担を維持していこうということと、経済対策も含めて子育て支援については別の形でもいろいろ検討しておりますので、そういった複合的な形で子育て支援をしていきたいと考えておりますので、御理解をいただければと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 今、市長が言われましたように、やはり償還払いが8市町村、現物償還併用しているところが37市町村と出てはいます。

それともう一つ、熊本県自体が3歳までということで非常に全国でおくれているんです。それで、私たち市議会もそうだと思うんですけど、県に対して、もう少し県自体でこれを拡充してくれということの申し入れをしないといけないと思うんですが、そのことについてはいかがでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 議長時代に、14市で構成する熊本県市議会議長会というのがありまして、そのときもその都度、知事に対して直接、いわゆる3歳までしか県が負担しておりませんので、こういった部分については、やっぱり県が負担すべきじゃないかという強い意見もありましたので、全市の共同提出ということで要望書を何度か提出しております。全国にもたしか提出したと思っているんですよ。ですから、議会としてこれまでも動いてまいりましたので、これからも当然、市長会というのが出てくると思います。そういった機会に、ほかの自治体との協力を図っていききたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

**○6番（宮下 昌子君）** 私たち市議会としてもぜひ県に申し入れするなりしたほうがいいのではないかなと思います。

時間が段々足りなくなってきました。

次に、住宅リフォーム助成制度についてですけれども、これもこれまで何度も議会で取り上げてきました。前市長は、要望が多数あるようであれば、また検討したいと述べられております。今議会に、国からの地域住民生活等緊急支援のための交付金というのが、1億8,000万円ほど追加議案ということで上程されましたが、この交付金をこの助成制度に活用することは考えられなかったのでしょうか。お聞きします。

**○議長（田中 勝毅君）** 建設部長。

**○建設部長（澤村 弘史君）** おはようございます。今、経済対策についての交付金の活用という御質問だと思います。

交付金事業につきましては、一応、市全体で取り組む事業としていくということで、関係する事業については各課で事業の提案をしたところでございます。その中で、住宅リフォームの事業についても、経済対策の一環として活用できるかなと考え、申し込んだところでございます。

ただ、交付金の実施計画を期間的に2月末までに作成することが必要だったもので、当然現在のリフォーム件数、あるいは1年後の予定件数を精査する時間がなかったために、今回は交付金の活用を見送ったところでございます。

**○議長（田中 勝毅君）** 宮下君。

**○6番（宮下 昌子君）** 今、国会が開かれているんですけれども、1月30日の総務委員会では、うちの日本共産党の田村貴昭議員がこの交付金について質問しています。内閣府の平将明副大臣が、これは住宅リフォーム助成にも活用できると認めておりますので、今度は骨格予算ということで6月が正式になると思いますが、6月の予算では、これは事業者の方たちにとっての仕事おこしということで大変効果があらわれてるというのはもう実証済みですので、ぜひお願いしたいと思います。市長。

**○議長（田中 勝毅君）** 堀江市長。

**○市長（堀江 隆臣君）** 国会でそういうやり取りがあったのを私も存じ上げてますし、今度の緊急経済対策がこういった性格か打ち出される前に、私も住宅リフォーム制度については導入を考えてもいいんじゃないかと、提案したところであります。

ただ、実際ふたをあけてみますと、消費喚起型と、いわゆる地方創生先行型というソフト的な事業の色分けというか、そういう色が濃い部分もありましたし、時間も非常に短くて、どちらかというと次年度予算の前倒し的な事業が実は多いんですよ。

ですから、おっしゃいましたように、今度の6月の補正で肉づけ予算ということになるんですが、そこで導入する事業の候補としては今も挙がっておりますので、こういった形でこういった予算でできるのかどうかも含めて、いましばらく検討させていただいて、6月議会では御回答できるようにしたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） ぜひお願いします。前回3年間していただいたときは、当初予算1,000万円、そして500万円だったんですけれども、年間を通してリフォームをされる方がいらっしゃいますので、200万円とか300万円ぐらいであれば余り効果がないんですよ。どうしようかなと迷っている人に、これがあるからリフォームしましょうとっていただく方を増やさなければいけないわけですから、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、松島・八代航路についてですが、これも何度も質問してきました。一応、国の補助金を使つての検証もされて、冊子になった報告書もでき上がつて、シミュレーションではやはり赤字額が大きいということで難しいと報告されました。

しかし、何とかフェリーでなくても客船だけでも再開してほしいという声が寄せられているんですね。船で八代の市場に出荷されている方も、今はいませんので、八代のほうからトラックで午前3時過ぎにとりに来られるそうです。餌引きする人は、その時間帯にトラックが来るので大変とかいろいろ悩みもあられるようです。それと、病院に行けないとかもありますし、山菜とかいろんな野菜とかを出荷しておられた地元の方たちが、それも出せなくなったという声もあります。

私は、前のときに言ったと思ひますけれども、八代の議員と私と住民の方と一緒に県に申し入れに行きました。そのとき、県の担当者の方から、市が再開すると決めれば3分の1の負担はしますという答えはいただいています。これではどれぐらい赤字が出ていたかな。とにかく利用していた人たちと担当の方との話し合ひの機会を持っていただひて、もう一度、どうにかならないか考え直してほしいなと思ひんですが、このことについてはいかがでしょうか。

観光面でも船を利用できるんですよ。今、外国の方たちが八代港に大型クルーズ船なんかで来たりして、バスでどンドン市内に行ったりしているという映像を見ますけど、船を使えば天草にも呼び込むことができるんじゃないかと思ひますので、そういうことを全て含めて、もう一度考えることはできないんでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 市長ですか。

○6番（宮下 昌子君） はい。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 八代港に大型クルーズ船が今年度はかなり見込めるということは聞いておりますので、こちらの対応については、定期船とかじゃなくてチャーター船で一つのツアーとして考えていかなければならないと思ひますので、ちょっと話としてはずらしたい、分けたいと思ひます。

私ももともと八代とは縁のある地域の出身なので、やっぱりその航路をどうにかしたいという気持ちは非常にあります。あるんですが、確かにハードルが高いのも事実で、県が3分の1負担すると言われたということなんですが、恐らく短い期間、1年とか2年とか、その程度だろうと。今までの話の中からはすると多分そういうことじゃないかなと思ひます。もし、本格的に長期的に

県がそれだけの覚悟をするということであれば、八代市との協議も、十分――。助成をするというお話し合いは、まずはできるかなと思うんですが、ただ一つ、県がうちとか八代に補助しようということが仮に現実的になった場合、助成をするにしても、いわゆる赤字補填をするという意味で出すということですよ。ということは、あくまでも運航するのは民間の方なんで、民間の方が黒字になることはないわけですよ。ですから、そこまでリスクを負ってやるという民間の方が、まずなかなか出てこないというのが、多分これまでの検証の中での――。なかなか報告に本音は出てきていないんですけれど、民間の方で協力する方が、今のところ、なかなか見つからないというのが現実だと思うんですよ。我々も何とかしたいとは思っているところはあるんですが、やっぱり行政が運航するというのは非常に難しいことがありますので、やっぱり運航していただくのは民間の方と。そこでどこが分岐点かというのをやっぱり検証する必要があると思います。

それで去年、もう1年以上前だと思うんですけれども、そのときはフェリーだったんですけど、大分でフェリーが売りに出されるという情報があって、マリン同志会という船主さんでつくる会のメンバーの方から協力をいただいて、仮にそういう船を使って八代・天草間を運航した場合、運航経費はどんなもんだろうというシミュレーションみたいなものをつくっていただいたことがあったんですよ。それを見ると、やっぱり何千万円という、5,000万円近い負担が必要だという結果だったんですよ。小型の高速船というか、乗客だけだったんですけど、それでも相当額の負担が必要だということで、自治体としてもかなりの覚悟が必要だし、なおかつ民間の方にもそれだけの地域貢献、もう利益ではなくて地域貢献という気持ちがないとなかなか参入できないのが現状だと改めて思ったというところです。

ただ、何とかしたいという気持ちはありますので、八代市長ともせんだってお話もいたしましたし、今度改めてお会いするときは話題としたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 地元の方の切実な要望ですので、今、八代と話をしてみるということも答弁されましたので、結果的にどうなるかというのは難しいかもしれませんが、ぜひこれは市民の声に添えていただきたいと思います。

次に、スパ・タラソについてです。スパ・タラソについては、平成21年度から指定管理となっております。委託料や修繕などで毎年3,000万円から4,000万円ほど支出がありますが、ちょっと時間が足りなくなりそうなので、少しまとめてしたいと思います。

今回、私がこのスパ・タラソを取り上げたのは、市民の方からお手紙をいただいたんですね。その方が言われるのには、足や腰、膝が痛くてスパ・タラソに時々行っているが、送迎バスが週1回金曜日だけで、ほかは一緒に行く人の旦那さんに車で送ってもらったりしていると。それがとても気の毒になるということで、せめて週に二、三回は送迎バスを運行してほしい。そうすればもっと利用者もふえるのではないかと。自分の知り合いの人もつえをついてやっと歩いていたんだけど、今は、そこに通ったおかげで、つえなしで元気に歩けるようになったということで、バスの送迎を増便してほしいというお手紙でした。

私もスパ・タラソに行っているいろいろお尋ねしましたが、送迎は今で精いっぱい、これ以上便数をふやすことはできないと言っておられました。

お手紙にもあるように、スパ・タラソにはもともと健康増進、医療費削減という目的があったはず。利用者も、昨年4月から指定管理者がかわっておられますので、前と比べたら少しふえているのかなと思いますけれども、もっとたくさんの方が利用できるように、スパ・タラソを利用することで健康になるということであれば、もっと市としてはこの辺のことを考えなきゃいけないと思うんです。現在、健康増進と医療費削減の目的に沿った取り組みは、スパ・タラソとの関係では何があるのかを健康福祉部長にお尋ねしたいと思います。まとめて短くお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 高齢者ふれあい課のほうで、2次予防事業と家族介護者交流事業というのをやっているような形です。ほっとほっと交流事業ということで、40人の方が今スパ・タラソのほうでやっておられるという形です。

それから、議員おっしゃっておられたように、ここ10年間、スパ・タラソの効果があったのかどうなのかということは、平成18、19、20年に、3カ月間を1クールとした形で行っておりますけれども、確かに効果はあります。それから、血圧も下がった、体脂肪率も下がって健康になるという結果は出ているんですけれども、ここ10年間を通して、プールやスパ・タラソを利用されている人の健康状態の追跡調査はしておりません。単年度的な形で行けば、効果は絶大であると認識しているところです。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 効果があるということで、私もスパ・タラソに行っているいろいろお話を伺ってきたんですけども、無料体験教室ということで、肩、腰、膝痛み改善教室とか、スリミング、これは痩せるのかな、そういう教室とか、冷え予防、代謝アップ教室などいろいろ実施しておられます。それで、実際にこういうことをして何と体重が6.7キロも減りましたとか、そういうのがあるんですけど、実際に、今、健康福祉部長も言われましたが効果があるということなので、ぜひともこれは利用者をもっとふやさないといけないと思うわけですね。

それで、スパ・タラソの送迎バスですけども、これをもっと市民の皆さんに利用していただくということで、その辺で少し市としても協力できるのではないかなと思うんですね。交通弱者対策ということで去年から私もいろいろ言っていますけれども、今、スパ・タラソまで行くバスというのは一部分なんですよね。SUNまりんバスも全部じゃなくて何便かは上がっていくそうですね。それと観光循環バスのパライズストローリーも上がってきます。だから、それを利用して行かれる方もいらっしゃるけれど、普通のバスは下のさんば一るところまでなので、そこまでスパ・タラソから迎えに行かれるということもあるそうです。

本来ならば、もっと、定期バスにしてもスパ・タラソまで上がっていけば、定期のバスが通っているところの住民の方たちは行けるわけですね。だから、その辺のことも少し含めて、市と

して協力するというか、その辺の考えはいかがでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（川端 義孝君） おはようございます。

確かに今、議員御指摘のとおり、公共交通機関には、若干ですけれどもスパ・タラソに直接向かっている便があります。ただ、やはりそれも路線バスであったり、松島・大矢野地区が中心の利用者の方になりますので、どうしても姫戸とか龍ヶ岳は少なく、実際、便がないものですから、利用に対して不便を感じているところではあります。

ただ、この指定管理者との協定書の中には、特別送迎に関しての文言はありません。基本的に、送迎をこちらのほうから指導なりするとなると、どうしても指定管理料に響いてくるのかなということもあります。そこら辺の要望は、住民の方から観光おもてなし課には来てないんですけども、スパ・タラソのほうではそういった声を聞いておりますので、今後慎重に状況を調査して対応を考えていければと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） そこで私の提案なんですけれども、もう去年から何度も何度も言っているんですけど、交通弱者の方たちに対してのスクールバスの利用ですね。イベントなんかあるときにも行きたくても行けないという人がいっぱいいるんですね。だから、スクールバスがあいてる時間を利用してやってほしいということを何度も言っているんですけども、これはできないというお答えがありました。だけど、実際にスクールバスを地域住民のために利用している自治体もあるんです。教育部長にお尋ねしますが、やはりこれは難しいことなんでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） お答えします。以前からスクールバスにつきまして、一般開放はできないかという御質問があったと思うんですけども、確かに場所によってはなされてるところもあります。ただ現在、うちは国庫補助で運用をしております。そういった趣旨、目的、それと児童生徒の安全確保という観点から困難とお答えしていると思っております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 国庫補助を受けているからそういう利用ができないということですかね。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） それが全てではございません。第一義的には、子どもたちの安全性という観点からと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） スクールバスを地域住民の交通手段として活用している自治体はたくさんあるんですけども、いろいろ条例をつくってやっておられます。スクールバスがあいて



いる時間帯を使うとか、いろいろ申し込んだりとか、その自治体によって違うんですけども、実際にそういうのをしているところでは、例えばスクールバス住民利用条例をつくってしているのが北海道の池田町です。それと、三重県の鳥羽市では、実際に福祉バスとして利用するというので使っております。

福祉のほうから、住民の健康のため、医療費削減のため、予防ということで、せっかくある立派な施設、とてもいい施設なのでそれを利用する手はないと思います。そういう観点からも、スパ・タラソをもっとたくさんの人が健康増進のために利用できる方法ではないかなと思うんですが、市長はいかがお考えですか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 自治体として、スクールバスの別の運行に取り組まれているところがあるということです。そこは私もまた調べてみないとよくわかりませんが、うちの場合は、バスを所有されている業者さんに委託する形でスクールバスを運行していますので、恐らくそういう運行をするには、また別のいろいろな資格もあるところに、また費用を負担してお願いするしかないのかなとは思っております。もし、自治体が運行主体でやっているのであれば、いろんな条例をつくれれば別の意図で運行することもできると思うんですけど、今、うちはバスを所有して市で運行しているという形態ではありませんので、もし、その運行を頼むのであれば、また別のお金を負担をしてお願いをするということしかできないのかなと、今は思っています。

実は、大矢野以外からも行けるように交通手段はないのかというのは私も前からずっと言われていたことでありまして、何とかできないかなとずっと思っていたんですけど、できないままここに来ました。それで、そこは指定管理者との協議も必要だと思いますので、まずはそこら辺から始めたいと思いますので御理解をいただければと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 時間がなくなりましたが、ぜひ市民の方たちの切実な願いです。これで健康になれば本当にいいことですので、ぜひお願いしたいと思います。

最後に、樋島のクラゲ加工場のことについて通告しておりましたが、この加工場については、建築違反で撤去ということになっていたんですけども、まだ基礎が残ったままで完全に撤去されていないんですよ。それで、ぜひこれは早急に完全撤去をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。もう時間がないので簡単に。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（静谷 正幸君） 完全撤去というか、その辺のところについては、再三お願いをしておりますが、今のところ、撤去の意思はないということです。越境している部分だけの撤去とかになりますので、その辺についてはまたお願いをする形です。

○6番（宮下 昌子君） もう時間がなくなりましたが、撤去の考えはないというお答えけれども、そこは撤去させないといけませんので、お願いしたいと思います。

きょうはこれで終わります。

○議長（田中 勝毅君） 以上で6番、宮下昌子君の一般質問が終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前11時03分

---

再開 午前11時13分

○議長（田中 勝毅君） 休憩前に引き続き再開いたします。

北垣潮君より資料の配付について申し出がありましたので、会議規則第150条によりこれを許可します。

10番、北垣潮君。

○10番（北垣 潮君） 議長の許可が得られましたので、一般質問をさせていただきます。

10番、北垣潮です。無投票でなった議員だから値打ちがないと言われましたが、市民の皆様のために4年待たずに働けるようになったことを皆様に感謝申し上げます。

4項目上げておりましたが、1番目の上天草市内の教科書を取り扱う書店については、教育部や宮下議員に聞いたら、どうも私の思い違いだったようなのでやめます。

この問題を質問しようと思ったのは、2月初めに片山善博前総務大臣の講演の中で、そのまちに書店があるということは、それだけでまちの文化であり、そのまちのゆとりのあらわれではないかと、まちの豊かさではないかと、講演の中でそういうのがありました。私は落選前にも、鈴居書店のほうから、いろいろ議員さんに対してのお願いの手紙が来ていたので、頑張らないといけないかなと思って出しておりました。しかし、話の内容と現実が違っているようでしたので取り下げます。

空白期間が長いという感じがしております。2年前と何もかも変わっています。前市長からは、私も反対ばかりしてとか、部下の職員を詐欺師呼ばわりしてからということで抗議文もいただきました。反対したことの中で、今になって見れば、前市長もいいこともされたということもあって、私も反省しているところもあります。でも、今でも自分が正しかったということもあります。

また、元副市長人事において賛成したということで、私は地域で避難を浴び、落選したときにはそのことを言われましたが、反対した人の反対意見は臨時議会で選任しなくてもいいんじゃないとか、元副市長の報酬の問題でした。賛成した私は、賛成討論で、今回のことが起こり得るかもしれないから、議員がちゃんと見ておけばいいと言ったと記憶しています。私が落選していなければこういうことは起こらなかったのではないかと考えています。

堀江市長とはいろんなつながりがあります。合併後の議員選挙の後、新宅議員、田中万里議員、川口望議員、そして私で会派みらいを形成していました。1回も2回も私より若い議員さんで、いずれはこの中から県議や市長が誕生するだろうと思っていました。

増田寛也元岩手県知事、総務大臣をされた方が、最近、地方消滅という本の中で、若年女性20歳から39歳の人口の減少率、2010年から2040年の間に5割を超える自治体が消滅

するだろうと言われております。上天草市の場合もマイナス65.5%で、五木村、山都町、小国町、球磨村、美里町、上天草市と市の中では1番目となっています。でも、決して悲観しなくても私はいいと思います。若者をたくさん呼んでおられる市町村もあります。専門家の人の話では、温度の温、温かさだと、市の、町の、村の温かさだと。そういう温かいところには、20代、30代の若者がいっぱい集まってくるという話をされておりました。

今回、2番目の各団体への補助金について、これも取りやめようかなと思ったら、宮下議員がこれはいいですよとさっき言われたので、これを言わせてもらいます。

婦人会、老人会、子ども会、青年団などの各種団体への合併前、合併後、現在の補助金の状況を教えてください。

**○議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

**○総務企画部長（静谷 正幸君）** まず最初に、補助金のガイドラインについて簡単に説明させていただきます。

補助金等は、公益上の必要性があると認められる場合に、個人もしくは団体等に財政的な支援を行うものであり、上天草市では補助金などに係る予算の執行の適正を期するために基本的な事項を定めた補助金等の交付規則に基づいて補助事業を実施しております。

また、市民や各種団体等に補助金を交付する場合は、基本的なルールを定め、補助金等ガイドラインを策定しております。

ガイドラインについては、九つの統一的な交付基準を設けており、必要性、費用対効果、中長期的な政策目標との整合性、他の代替手段との比較、それから経費負担のあり方について検証し、補助の方向性について見直し策を検討できるようにしております。

九つの統一的な交付基準は、事業費補助を原則としております。終期設定の徹底、交付要綱等の制定、それから補助金の制度や効果等に関する情報公開の徹底、小額補助や補助率の低い補助の見直し、補助対象経費及び算定基準の明文化、補助率の適正化、実績報告などの適正なチェック体制、市税等の滞納者に対する交付制限としております。

補助金は、行政目的を効果的に、かつ効率的に達成する間接的手段として重要な役割を果たしているが、社会情勢の変化などに応じ、団体の自主性、自立性の阻害、補助の長期化、透明性の欠如、補助率の適正化などに関し問題が生じないように、事業担当課において常に見直しを図りながら運用していかなければならないということでやっております。

これに基づきまして、各部署のほうで個別の補助については説明をさせたいと思います。

**○議長（田中 勝毅君）** 教育部長。

**○教育部長（舩本 伸弘君）** 御質問の各種団体への合併前、合併後、現在の補助金の状況についてお答えします。

教育委員会におきましては、御質問の趣旨に記載してございます婦人会、子ども会、青年団などの団体がございます。

まず、上天草市地域婦人会、上天草市子ども会、上天草市青年団を初め、上天草市PTA連合

会、文化協会、パールラインマラソン大会補助金、市体育協会活動補助金等、九つの団体補助事業を所管しているところでございます。各種団体に対する主な補助金の状況につきまして申し上げます。

まず、上天草市地域婦人会連絡協議会でございます。合併前の平成15年度旧町の補助金合算額が188万円を交付しております。また、合併後の平成16年度には183万円となり、平成26年度現在の予算額は140万円と推移しています。なお、平成27年度におきましては、同額の140万円を要求しているところでございます。

次に、上天草市単位子ども会でございます。合併前の平成15年度の旧町の補助金合算額が85万7,000円を交付しております。合併後の平成16年度には85万4,000円、平成26年度、現在の予算額は18万2,000円と推移しておりまして、27年度の要求を15万9,000円としております。

なお、交付方法につきまして、平成20年度までは上天草市子ども会連合会への総登録者数等を基準とした額を一括して連合会に交付していたところでございますけれども、交付要綱の見直しに伴い、平成21年度からは、各単位子ども会が活動実績をもとにそれぞれ申請を行い、単位子ども会に直接交付する形となっております。

続きまして、上天草市青年団でございます。合併前の平成15年度旧町の補助金合計額は142万6,000円を交付しております。合併後の平成16年度には76万円、平成26年度現在の予算額はゼロとなっております。

以上が交付状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 市民生活部長からはありますか。

○市民生活部長（緒方 雅文君） 市民生活部では、税務課におきまして三角たばこ税連絡協議会及び天草たばこ販売協同組合に対する助成金がありました。

合併前の補助金の状況につきましては、大矢野町に80万2,000円、松島町に34万7,000円、龍ヶ岳町に13万5,000円、姫戸町につきましては、地元消費推進用のライターを配布しておりました。

合併後につきましては、三角たばこ税連絡協議会、これは大矢野町と松島町が加盟しておりますが、ここに108万9,000円、それと天草たばこ販売協同組合、これは姫戸町と龍ヶ岳町が加盟しておりますが、ここに29万5,000円を助成しておりました。その後、補助金等の見直し等がございまして21年度で終了しております。平成22年度からは、地元消費推進用の100円ライターを配布しているところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 健康福祉部所管関係ですけれども、福祉課のほうでは補助金として、社会福祉協議会、それと民生児童委員協議会連合会に対して補助金を出しております。

まず、社会福祉協議会につきましては、平成16年合併当時ですけれども、4,861万8,000円、それと現在、平成26年度におきましては4,500万円を交付しております。それから、民生児童委員協議会連合会につきましては、平成16年、886万7,000円、それから現在平成26年度、

679万円を交付しているところでございます。

それから、高齢者ふれあい課のほうの所管ですけれども、ここでは老人クラブ連合会、それからシルバー人材センター、それと各地区の敬老会実行委員会のほうに補助金を出しているところでございます。

まず初めに、上天草市老人クラブに関しましては、平成16年度に918万7,000円、それと平成26年度、今年度ですけれども、544万3,000円の補助を行っているところです。それとシルバー人材センターにつきましては、平成17年の4月1日に設立をされておりますので、その当方で850万円、それと平成26年度で695万円を補助しているところでございます。それから敬老会につきましては、今、市内12地区で実行委員をつくっていただきまして、補助金等を出しておりますが、平成21年においては市全体で1,257万9,000円、それから平成26年度、1,237万円を出しております。敬老会の対象者につきましては、高齢者70歳以上という形で今はなっておりますけれども、横ばい状態でやってきているところです。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（川端 義孝君） おはようございます。

経済振興部では、農林水産課関係で以前、合併前に七つの事業に補助金を交付しておりました。現在ですけれども、その七つの事業はほとんど農林水産の振興に関することでありまして、その件に関しましては、現在要綱を変えた中で、全ての以前あった補助事業に対して補助をしている状況であります。

実績といたしましては、平成16年度の予算額ですけれども、7事業で2,585万2,000円、平成26年度の予算として1,561万8,000円となっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私は子ども会とか老人会の方から、合併してから補助金が少なくなった、運営するのが厳しいとか、そういう意見を聞きまして、今回質問するようにしました。

確かに社会福祉協議会から葬式のととかは弔電がよく来ますけど、やっぱりここは余裕があるのかなと。7,861万円とか、6,809万円とか出てるんですけど、もう少し老人会とか子ども会とか、もう青年団とかはゼロになっているんですけど、若い人たちにも、何か活動ができるようにしてほしいと思います。やっぱり将来このまちを支えていくのはこういう若い人たちだと思えます。

婦人会もある程度減っているんですけど、婦人会の人たちは市の事業とかにも大変頑張って、いろいろ炊き出しとかされております。もう少し補助をしてもいいのではないかなと私も思いますけど。子ども会とか青年団にも、もう少し出してもいいんじゃないかなと。そして、市のイベントとかにも、青年団、老人会、子ども会の人たちにも協力をお願いすることはできないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） まず、なぜ青年団への助成がなくなったかということの御説明をさせていただきます。

青年団につきましては、平成24年度に補助金申請が起こっていなかったという部分と、平成25年度からは活動を休止している状態でございます。そういった状況の中で、活動補助助成金を停止している状態でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 車だって油がないと動かないんですよ。だから、油代という感じで青年団の人たちにも幾らか補助してもらえれば――。補助申請しなかったということでありませうけど、申請の仕方がわからなかったとかそういうこともあると思いますので、何とか青年団の人たちにもいろいろ指導を市のほうからしてほしいと思います。

次に、老人会についてはどうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 合併当時から比べると、今の補助は400万円ほど減額になっている状況でございます。確かに今、高齢者の方というのは増加しておりますけれども、老人クラブに加入される割合というのはかなり低い状況で、半数ぐらいだったと思います。

老人クラブへの補助金を出す計算式は、老人クラブ数掛ける幾ら、それと老人クラブ会員掛ける幾らという形の計算をもってやっております。これは県の補助の計算手法に準じた形なんですけれども、総額に対して、国、県がそれぞれ3分の1、3分の1、市が3分の1を活動補助という形で出すことになっております。それで計算をしますと、今の単純なクラブ活動費として出しているのが450万円ぐらいなんですけれども、県の計算式に基づくと、県がはじき出した数値よりも市はかなり上乘せをして出している状況でございます。

確かに、老人クラブのほうから、かなり厳しい、活動をしていく上では補助金が少ない、足りないという声を私もいっぱい聞いております。そうするのであれば、今の計算は県と国の基準にならってやってるんですけれども、それに基づくと、やはりクラブや会員数が減少すると必然的に減少になってしまいますので、老人クラブに独自の活動、新規事業に取り組んでいただき、それについて市の補助金をつけるという考え方を持っておりますので、厳しい状況ではあるんですが、高齢者の方々の健康増進のためのいろいろな活動、例を挙げればゲートボールとか、新規に上天草市全体で活動するとか、そういう新しい取り組みであれば、また市のほうでも別件的な形で補助をつけられるんじゃないかなと考えておりますので、そのところは御理解をいただきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 今、老人会といってもまだ元気のある方がいっぱいおられます。活動といいましてもわからない人もおられますので、市のほうでもいろいろ指導とか助成とかをしてほしいと思いますので、よろしくお願いします。

子ども会についてはどうですか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舛本 伸弘君） 現在、まず団体の補助金の算出根拠を御説明を申し上げたいと思います。

先ほど総務企画部長より補助金のガイドラインについて述べられたところでございますけども、各種団体の補助金、交付金につきましては、上天草市補助金交付規則及び各種の補助金交付要綱を作成しておりまして、その規定に基づき交付を行っているところでございます。

また、各種の補助金交付要綱につきましては、平成20年度に全体的に統一的に見直しを行ったところでございまして、従来の団体の運営補助から活動補助へ変更したところでございます。それにつきましては、補助金の金額は対象事業の2分の1以内として、それぞれ限度額を定めて補助を行っているところでございます。

これにつきまして、子ども会について申し上げます。

上天草市単位子ども会につきましては、先ほど申し上げましたとおり、それぞれの子ども会に交付しているところでございまして、その交付対象となりますのが、会場使用料、謝礼金、バス借り上げとはっぴ等のクリーニング代等の補助対象経費の2分の1を子ども会会員数に1人当たり500円を乗じた額を交付してるところでございます。またなお、この会員数の中には育成者を含んでいないところでございまして、こういった計算式でいきますと、先ほど健康福祉部長も申しましたとおり、会員数の減少が総額の減少につながっていくものと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私も子ども会で一生懸命頑張っておられる人から、予算の補助が少ないとお聞きしましたので、こういう質問に至っているわけでありまして。やっぱり上天草市を愛する気持ちを育てるためにも、もう少しの助成が必要じゃないかなと思いますけど、部長どうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舛本 伸弘君） 増額云々という形は、今、申し上げましたとおりその団体の活動に応じた状況となっております。また、違う側面では、そういった子ども会なり、青年団活動の活性化に向けては、今できる支援を、行政的には行っているところでございますので、その辺の御理解をお願いしたいと思います。

○10番（北垣 潮君） ぜひともよろしく申し上げます。時間も大分たってきましたので、私のきょう一番のメインといえますか、水害後に建てられた市営住宅について質問します。

上天草水害後に建てられた市営住宅はもう40年以上過ぎていると思います。上天草水害を思い出すと、今でも私はこの世のものかと思うような情景でした。雷は目の前で鳴っておりましたし、連日何日も雨が降っていました。前日の夕方から雨がやんだので、夜中友人3人で立ち話をしていると、一陣の風が吹き、ぼたぼたと大粒の雨が降り始め、山津波が起きるまで降り続けておりました。私の地区も何人も人が亡くなりました。田中議長のお母さん、そして2人の息子

さんも亡くなられたそうです。その雨が最後で、次の日も次の日も晴天でした。多くの方が大変な目に遭われたわけであります。私の知っている人も人命救助をされて、その後、こちらにもういたくないということで、都会に出ていかれた人が何人かおられます。本当にかわいそうな出来事でありました。

龍ヶ岳、姫戸の市営住宅にはそういう人が多くおられます。あのころ働き盛りだった30代、40代、50代の方は、もう膝が悪くなったりでトイレに行くのが大変だということをいっぱい聞いていましたので、落選前、議員だったときに建設部に相談したら、すぐにやりますとのことでしたが、何かまだ進んでいないようです。

落選中の8月ごろ、病院で樋島の市営団地に入っておられる方に、うちの妻は膝が悪いので、トイレを和式から洋式にしてもらえないだろうかという相談を受けました。私も落選して議員ではないので、樋島には2人の力のある議員さんがおられるので頼みなさいと言いましたら、あなたじゃないといけないと。この言葉を聞いて、次回の市議選は頑張るぞと。今になってその人からの頑張れというエールだったと思います。私が議員の中で一番貧乏だから、気持ちもわかるのかなというそういう思いもありましたけど。

とにかく、よく市営住宅の方から聞くんですよ。何とかできないでしょうかと。確かに、その当時は水洗で、一番便利なトイレでありました。和式でも、男性もできるようにちょっと高くなっているんですね。でも、もう年をとれば、手すりがあってもなかなか、立ったり、座ったり、膝が悪くなれば特にそうなるんですよ。本当に私めもかわいそうだと思うわけであります。何とかしてほしいと。部長、どうかにかできないですか。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） 上天草市の市営住宅につきましては、現在、市全体で20団地、59棟で283戸あります。昨年2月に市営住宅の長寿命化計画を作成しております。その中においては、洋式トイレの改修という部分につきましては、大矢野地区の荒木団地のE棟だけ、一応改修予定でございます。というのが、今、北垣議員さんがおっしゃられたとおり、姫戸・龍ヶ岳地区については、建物自体ほとんどが昭和49年築でございます。あと10年すれば耐用年数がほとんど切れてしまう状態でございますので、今、長寿命化計画によって本体の老朽化が激しい部分、特に屋根の防水とか外壁塗装、給水管、ガス管の取りかえを行って施設の長寿命化を図ってるところでございます。

また、居住性の向上としては、玄関ドアの交換、あるいは安全性確保で玄関、浴室、トイレの手すり等を10年間で整備していくという計画で、国の補助で整備していくところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） いろいろ二間戸団地の事業とかもありますけれど、これは市民の声を聞かれてそういう事業をされているのか。その市営住宅に住まれている方の要望でそういうことをされているのか、どうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。



○建設部長（澤村 弘史君） まずはトイレの改修よりも本体の改修で、今新しい市営住宅をつくるには多額のお金が必要でございますので、耐用年数が過ぎた後でも住めるように、まずは本体の改修を行わないと、どうしてもトイレの改修だけ先にやって本体がだめだということであれば、住まれる方がもっと不自由になるかと思っておりますので、そのあたりを考慮して外壁工事とか本体の改修のほうに最初に取りかかっていたいと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 本体とか外壁の工事も確かに必要ではあると私も思います。理解しますけど、住んでおられる方がどうかしてくれと。そういう切実な思いで訴えられる、そういうところがいっぱいあるんですね。

市長は高齢者の方を大事にすると。確かに前市長は、一般質問の中で女性議員の方から愛がないとか言われておりましたが、私は、今回の堀江市長は高齢者の方も大事にするという、住んでよかったと言われるまちにしたいということを堀江隆臣の約束として掲げられております。そして、できないようなことはしないということも言われておりますので、もう市長にお伺いします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 入居者の方の御要望とにかくお応えしたいという気持ちはやまやまなんですけれども、今ここでやれるかどうかというのは、当然財源も必要になりますので即答はできません。きょうは検討させてくださいという御答弁で御勘弁いただきたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） ちょっと元気がないですね。もうちょっと前市長みたいにほらでも吹いて頑張ってもらいたいと思っておりますけど。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。発言の申し出があつています。

○10番（北垣 潮君） はい。お願いします。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） どうもお疲れさまです。

市営住宅のほうに住んでおられる方で、これはもちろん住宅を管理されている都市整備課なりの許可がなければできないんですけれども、介護保険とか障がい者とか、そういった形で、障がい者の方、要支援、要介護の認定者の方が住み慣れた家で暮らすための住宅改修というのがあります。

要支援、要介護、それから要援護高齢者、それから障がい者の方で、手すりの設置、段差の解消、それから和式から洋式に変更するという形であれば、住宅改造制度の利用を担当課のほうに相談していただくことができます。金額的には最高で20万円、そのうち1割負担がありますので、18万円は介護保険なりから出すという制度もありますので、そういった形等を活用していただきたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） ありがとうございます。いろんな補助金とか助成とか、あるということをお伺いしました。市営住宅に住まれておられる方は、そこまでは、部長みたいにはお知りにならないと思いますので、地域に出かけられて、そういう説明も、建設部長、執行部のほうからしてもらえないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） 今、議員御指摘のとおり、健康福祉部と連携をしてパンフレットなり配布させていただきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） よろしくお祈いします。

次に、最後に出しておりました森国久氏の功績の検証について質問します。

皆さんにお配りした資料、これは去年の9月7日の熊日の新聞です。天草五橋の実現に貢献し、起工式を前に亡くなった旧龍ヶ岳の元町長、森国久氏の企画展が7日、天草市の本渡歴史民俗資料館で始まると。五橋では、旧大矢野町長の森慈秀氏が有名だが、隠れた郷土の偉人を掘り起こそうと企画した。28日まで。

「天草は一つ観光が命」が政治理念の国久氏は1953年に全国離島振興協議会副会長となり、離島振興法成立に尽力、56年に天草架橋期成会の副会長となり国や県への要望活動に奔走したと。年譜や当時の新聞記事など資料約10点と愛用の手帳を展示。同館学芸員の梶原誠太郎さん30歳は、五橋は2年後に開通50周年を迎える。国久氏の功績を知ってほしいと話していると。

本渡歴史民俗資料館でこういう展示があって、私もこれを見てびっくりしました。私は、大矢野町長より頑張った人が天草のほうにもおられるという話は聞いておりましたが、まさか樋島出身の龍ヶ岳町長、後で町長になられるんですが、森国久初代村長さんとは知りませんでした。恐らく天草の中心の本渡あたりの人だろうと思っておりました。しかし、先ほど大矢野の何川雅彦議員は、私は知っていましたよと。頑張った人がおられ、森国久さんだということも知っておられたと。これは私も恥ずかしくなりました。自分は龍ヶ岳町の議員でいてそんなことも知らないでということで、その反省も含めて、私は今回、一般質問をしようと思案しました。

インターネットで本渡歴史民俗資料館を見ると、9月より開催していましたが、御好評につき期間を延長して展示しております。ただし、現在開催中の「いしこれ」展等で用いるスペースの都合もあり、当初より規模を縮小し、コーナー展示という形で展示しております。なお、期間は年内いっぱい、12月28日となっていますと、過ぎたところの話が書かれておりました。直接、私も1週間ぐらい前に行って、いろいろ資料を出してもらって見させてもらいました。

ところで、教育部長にお聞きします。昭和11年の12月議会、12月3日の議会だったですか、紋付、モーニング姿で森慈秀先生が質問されておりますけど、その発言内容はわかりますか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 議員より事前に通告がございましたので、一応内容については確

認させていただいております。これについて概要で申し上げてよろしいでしょうか。

○10番（北垣 潮君） はい。わかりました。

○教育部長（舩本 伸弘君） 概要を申し上げれば議員のおっしゃるとおりですね。森県議が昭和11年の通常県議会におきまして、三角から中神島を経由して大矢野の岩谷に幅員8メートル、長さ700メートルの橋を架け、天草県道の起点となる松ヶ崎に接続し、そこから柳港まで出て、優秀な連絡船、多分高速艇と思いますけど、合津港～大浦につながれば15分から20分で天草本島とつながるといことで、天草本島が九州本土に接続すると。

また、合津港を天草本島の交通の拠点として、本渡を中心としてそこから各地に通じる道路を現在の2倍の幅員にすることで産業が活性化し、他の地区と遜色のない文化水準になるという趣旨の発言と思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに、最初に公の場で森慈秀先生がそういうことを言われているわけでありまして。中神島に眼鏡橋みたいなのをかけてはどうかと。それから、大矢野から松島までは船でということをお聞きされております。

慈秀先生は尊敬する人ですし、先ほど森慈秀記念図書館の話も一般質問の中で出てきました。私は森慈秀図書館をしょっちゅう利用させてもらっております。あそこにしかない本もいっぱいあります。あの人は、町長の報酬をもらわずに、それを基金としてあの図書館をつくられたと。本当に私は、あそこに行けば身の引き締まる思いであります。あの人の魂があそこにあるのではないかなと。永遠に残してほしいという思いであります。本当にすばらしい人であったと思いません。

また、森国久氏についても、命をかけて、途中で命をなくされるわけですが、天草架橋実現に向けて一生懸命頑張られたということが、いろいろ調べていくうちにわかってきました。片田舎の樋島といいますか、龍ヶ岳は昔は砥岐といって、天草でもほかの町の人たちはもうへんぴなところと言われたところだったそうですよ。そこからの町長さんが、天草町村会の会長とか、地区協議会の会長とか、天草振興協議会の会長とかをされて、何でと私は思っておりました。いろいろ調べてわかったことなのですが、森国久さんは県立天草中学校で園田直元外務大臣や松岡県議会議長とかと同級生で、2年生のときに他校の生徒十数人と乱闘騒ぎを演じ、県立八代中学へ転校するようになったとお聞きしました。生一本で向こう見ずなところがあり、園田先生や松岡先生も一目置かれていたそうでもあります。弁術も力強くすごい人だったとお聞きしております。

国に対して、桜井三郎知事と天草振興協議会会長の森国久氏の連名で五橋の陳情をされていたという資料もあります。陳情書の原本ですかね。そういうものもあります。やっぱり歴史というのは、亡くなればそうなるのかなと本当に残念な気持ちであります。

天草のアーカイブス、旧五和町の役場に行くと資料とかがいっぱいあるそうなので、検証され、ことしの五橋祭の作文にも森慈秀先生だけでなく、小学校、中学校の生徒さんたちにも教えても

らうことはできないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 御質問の森国久氏でございますけども、議員御紹介のとおり、龍ヶ岳町長としてとどまらず、天草全体の発展に尽くされた町長であったと認識しております。

また、教育委員会におきましては、市の歴史や文化財について調査、資料収集、確認作業を行っております。また、郷土の偉人に関する資料も同様に収集作業等を行っているところでございまして、現在、事業を進めております市史編さん、姫戸・龍ヶ岳町史の作業の中で、郷土の偉人の一人として資料の収集などを進めているところでございます。

学校で教えることができないかとの御質問でございますけども、まず結論から申し上げます、市内の歴史、文化、環境、人物等を学校で教えることは可能でございます。学校で教える内容は、学習指導要領によりまして示されているところでございます。

また、取り上げる人物につきましては、例えば小学校6年生社会科では42名が例示として上げられているところでございます。これらは、主に国の歴史の中での代表的な人物となっております。また、小学校3年生及び4年生社会科において、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を学習するように指導されております。

このように、森国久さんを初め、郷土の誇りとなるような方につきましては、まず小学校の社会科及び次に各学校での内容を定める総合的な学習の時間、さらには道徳の郷土愛の価値項目の学習の際、自作資料を作成するなどして取り上げることが可能と考えられます。

ただし、学習内容の詳細につきましては、学校が教育課程を編成する上で決定していくことになっておりますので、各学校で取り上げる人物もそれぞれ決定されていくことになっております。

また現在、本市ではふるさとを大切にすることを育む推進事業を実施しております。このことは本年度と次年度の2カ年計画で実施する計画でございます。

また、小学校3年から6年の道徳と総合的な学習の時間で、市内の歴史、文化、環境、人物等の教材を作成していく予定でありまして、現在、その教材を集め検討を重ねている状態でございます。

以上のことを踏まえまして、学習する内容については、各学校で郷土愛に対する教育も含めて、地域素材も有効に活用しながら児童生徒のよりよい教育ができるようにと考えております。ただし、このことを史実とするためには、十分な時間、研究、検証が必要と思われることから、学校における取り扱いもその後にならうかと思っております。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 一生懸命頑張ってもらいたいと思います。

本市出身の森国久企画展が天草の本渡歴史民俗資料館でありました。市長にお聞きしますが、上天草市でもそういうのはできないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 準備が整えば、当然できると思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） ありがとうございます。森国久さんは旧制の八代中学、市長や園田議員の八代高校の前身であります。ぜひとも頑張ってもらいたいと思います。

園田議員はきのうだったかな、慈秀さんの横に銅像を建てればいいんだと言っておられましたけど、それはそれで――。

私も森慈秀先生の書かれた本を以前読んだことがあります。湯島にある苗字を上げられ、古賀というのは福岡のほうから来たとか、いろいろ苗字を上げてどこからの人だとか書かれておられました。湯島の森家というのは、慈秀さんは湯島で生まれているんですけど、もともと樋島から来たと書かれておりました。そして、湯島にはアコウの木がいっぱいあるんですけど、このアコウの木もそのとき樋島から持ってきたと書かれていました。

市長に再度お聞きします。

来年は五橋の50周年式典があります。私も開通式のときは高校生ぐらいでしたか、前の日に熊本に渡って、帰りはバイクで渡って、帰りは雨の中、開通式があったのを思い出しております。本当に橋ができる以前は、魚も三角の漁業組合の下につけて、トロ箱を抱えて階段を上がっていました。若かったからできたけど、今はもうできないので本当に助かっているところでもあります。

50周年記念式典ということは、来年考えておられますか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 開通50周年につきましては、上天草市だけではなくて、天草市、苓北町の2市1町とそれに県も加わって、今協議が始まった段階なんですけど、そういった形のイベントになると思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私が言うのもおかしいですけど、私の提案ですけど、できるなら、いろいろこの五橋建設に頑張られたその当時の県議さんやら、町長さんやら、村長さんやらの子孫の方も参加されるように要請というか、お願いするようなことはできないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 先ほど申し上げたように、こういった形の企画、イベントになるかというのはこれからなんですけど、当然、50年前の開通の歴史的なエピソードとかそういったのも当然出てくると思うし、歴史的な物語みたいなものがひもとかれる部分は出てくるかなと私も思ってるんですよ。

今、議員がおっしゃられたように、貢献された方が何人か仮にいらっしゃって、その子孫の方がいらっしゃれば出席を要請できないかという御意見があったということは、そういった会議の中でも申し上げたいと思います。ただ、どなたが一番貢献したかという論争になるのは県も避けたいと申しておりましたし、多くの方が貢献して五橋が開通したんだという形のイベントに持つ

ていきたいと思っておりますので、御理解をいただきたいと思えます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） よろしく申し上げます。

私、龍ヶ岳村の最初合併したときの広報を探しました。創刊号と、ガリ版刷りかなと思うような感じで書かれております。それに村長の略歴というのも書かれておりまして、警察官もされておまして、昭和12年には今津警察署、今の松島ですかね、そこにも勤務されておられるということも書かれてあります。その就任の挨拶とかにも村民の融和を第一としたいと。選挙もあって、選挙の後の感情の溝、その地ならしをやっていかないといけないと。派閥も対立も尾を引いておりますのは、人の世の弱い悲しい習いでしょう。私の大きな役割は、人のことも事業のこともいろいろなことも、この4年間を通じ地ならしに努力し、融和を図ることであると思えます。そして、立派な村、すなわち全村、皆様の生活の向上を図ることであると書かれております。

堀江市長には、持ち前の温かさを発揮して、若者がたくさん、よそからでも住んでくれるような市を目指してほしいというエールを送って、私の質問を終わります。

○議長（田中 勝毅君） 以上で10番、北垣潮君の一般質問が終わりました。

これをもって、本日の一般質問は終了しました。

9日は総務常任委員会、10日は文教厚生常任委員会、11日は経済建設常任委員会を開催しますので、関係委員の出席をお願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後12時14分